

福祉SOSゲームの概要（1）

【概要】

- i 地域で市民を支援する人や団体の相談対応力の向上のため、多くの事例の模擬体験ができる「福祉SOSゲーム」を作製しました。
- ii 本ゲームは、支援者等が、福祉課題や社会資源について知り、適切な専門機関につなぐという流れを育むものです。
- iii 作成に当たっては、文教大学と協働で作業を行いました。
- iv SOSは、「S：社会資源」、「O：お悩み」、「S：相談」の頭文字。同時に草加の「S」でもあります。

福祉SOSゲームの趣旨

- 近年、地域の福祉課題が多様化・複雑化しており、それらの課題を行政のみで解決するには限界があり、地域住民同士で支えあう仕組みの構築が必要となっています。
- 本ゲームは、地域住民のみで、全ての福祉課題を解決するのではなく、福祉課題や社会資源について知り、専門性の高い福祉課題については、適切な専門機関につなぐという流れを育むものです。

名称

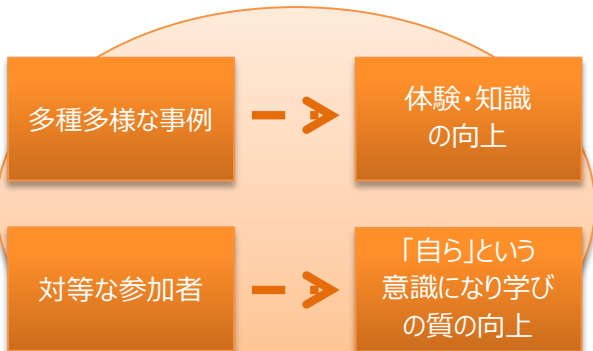
SOSは一般的に「助けてほしい。」という意思表示を行う際に用いられます。地域の人の「助けてほしい。」という声に気付くため、「助けてほしい。」という声に答えるため、このゲームを通じて、福祉課題を学び、社会資源を学んで行こうという思いも込め、「SOSゲーム」としました。

展開

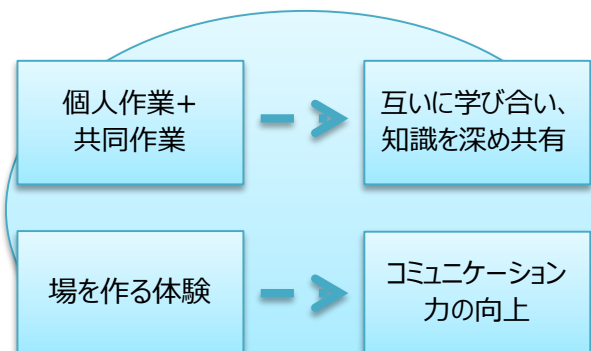
様々な研修会、講座などで活用を図り、地域福祉の担い手のすそ野を広げるとともに、市民、地域、専門機関、行政が連携する地域福祉のネットワークづくりを推進していく予定です。

福祉SOSゲームの目的・メリット

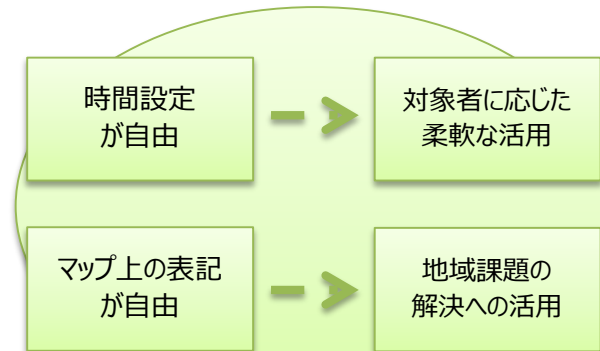
①ゲーム形式



②グループワーク



③様々な場面での活用



福祉SOSゲームの概要（2）

本ゲームは、相談事例の書かれたカード（ケースカード）を、仮定の地図（マップ）上のどの社会資源につなげるかを参加者が話し合い、多種多様な事例に触られること、グループ内で話し合いができることが特徴です。

【実施方法】

①カードの読み上げ リーダーがケースカードを1枚取り、その内容を読み上げ左隣のの人に渡します。

世帯主 からの相談		No. 1-6
世帯構成		
世帯主	吉町 五郎	
男性	70歳	無職
妻	吉町 キヨ	
女性	68歳	無職

相談内容
妻が突然の病気で介護が必要になった。自宅で介護を行いたい。介護の知識がなく、おむつの変え方などがわからない。

②話し合い ケースカードをマップ上の、どの社会資源につなげるのが適切かグループで話し合います。

どこにサポートをお願いしたらいいかな？

地域包括支援センターは？他にもありそうね

③カードの配置 一定の結論が出たらケースカードをマップ上の社会資源の上に置き対応終了。（つなぎ先が複数の場合は付せんを使う）

置くよ！

次のカードを読むよ

①～③を繰り返します

SOSゲームで知った社会資源を家庭や地域でのお困り事に活用しましょう

カードの読み上げ

カードの配置

話し合い

福祉SOSゲームの概要（3）

【使うもの】

■ ケースカード【縦91mm、横133mm（A4を4分割程度）の厚紙】

世帯主 からの相談		No. _____
世帯構成		相談内容
世帯主	カフ ヤナギ テツオ 川柳 哲夫	妻は認知症で、最近夜遅くに徘徊するようになった。近所でトラブルを頻繁に起こしている。
男性	73 歳 無職	
妻	カフ ヤナギ 川柳 ハナ	
女性	71 歳	
	歳	

誰からの相談か、問題となっている世帯の世帯構成、相談内容が書かれています。
カードごとに内容は様々。

一般的な社会資源（施設、サービス、人など）が書かれています。
不足する場合、自身知っている社会資源を書き込んでいくことも可。

グループで話し合いながらカードを配置

■ マップ【横1066.8mm、縦1519.6mmの模造紙】

